

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270401118		
法人名	有限会社 リナ		
事業所名	グループホーム 星の里		
所在地	千葉県千葉市若葉区野呂町738番の2		
自己評価作成日	平成22年3月15日	評価結果市町村受理日	平成22年5月27日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VICコミュニティケア研究所
所在地	千葉県千葉中央区千葉港4-4 千葉県労働者福祉センター5階
訪問調査日	平成22年4月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に恵まれ穏やかな環境の中、星の里という家庭で入居者一人ひとりが最後まで安心して生活できるよう、関係機関の力を借りて、スタッフ一同はターミナルケアに取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム星の里は若葉区野呂町の市街化調整区域にあり、周囲は水田や竹林が自然のまま残る静かな環境である。職員の多くが近隣に住んでおり、離職率も低く安定している。近隣から果物や野菜のおすそ分け等がある等、普通の暮らしをしている。ホーム側からも近隣住民に行事の呼びかけをしたり、自治会の一員としての基盤作りに取り組んでいる。困難な事例の人も積極的に受け入れ、自立に向けて支援している。全職員を対象とした研修(外部・内部を問わず)の機会が数多くあり、職員の教育に熱心に取り組んでいる。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価(A棟)および外部評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自然と視線がいくように毛筆で大きく書いて掲示している。ケアの前に一人ひとり頭に入れてケアしている。	毛筆で書かれた理念は見やすい場所に掲示してある。職員は仕事を始める前に毎回確認しているが、ホーム全体で共有して実践につなげていこうという機会が少ない。	管理者と職員は理念の具体化のために、会議やミーティングを通して理念を掘り下げるなど、全員で共有する機械を持つことが望まれる。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会し地域の花火大会等に参加し交流している。又ボランティア来所行事等には地域の皆さんを招待している。	自治会に加入し、地域の行事に積極的に参加している。ホームからは行事開催時に近隣に声をかけ参加を得ている。果物や野菜のおすそ分け等も相互に行い、庭木の伐採を手伝ってもらったこともある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会を通じて取り組めるよう心掛けている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所からの運営状況報告に対して、出席者から意見・質問等いただきこれを積極的に活かしている。	運営推進会議は、家族、民生委員、自治会長等の参加を得ており、災害対策やホームの改善課題について話し合い、意義のある場になっている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護担当者と日頃から連絡をとりあい、良好な協力関係を築くように心掛けている。	市町村担当者とは困難な事例の人などの受け入れを通し、日頃から連携している。職員は入居者の現状報告を行うなど、担当課を度々訪問し、協力関係を作っている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	介護保険指導基準の拘束の対象となる具体的な行為の掲示、借用ビデオを利用しての勉強会等により徹底理解を図っている。	開設以来、施錠も含め身体拘束を行っていない。職員は内外で行われる種々の研修に参加したり、施設内で指定基準の禁止対象となる具体的な行為等のビデオを利用した勉強会参加したりしている。研修報告書は全員が閲覧している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の例の掲示、会議等で話し合う等職員一人ひとりに理解させ、虐待防止に努めている。		

グループホーム星の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	千葉県権利擁護センターと連携し、活用している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な時間をかけて説明し理解して頂いている		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来所持には声を掛け、何でも言って頂ける雰囲気作りに努力し、意見・要望は職員で話し合い、サービスに反映している。	入居者に常に問いかけ、要望を引き出せるようにし、課題の解決については速やかな対応を心がけている。家族からは運営会議や訪問時に意見や要望を聞くようにしている。意見箱を設置している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員とのコミュニケーションを図り、意見の言いやすい職場とし、これを運営に活かしている。	ミニカンファレンスやチームケア会議を通して意見を聞くようにしている。又、管理者は日頃から職員とのコミュニケーションを図るよう心がけ、意見の言いやすい職場になるよう配慮している。勤務体制等も職員の意見を反映したものにしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の実績等を把握し、職員一人ひとりが働きやすい環境条件に配慮している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	力量を見極めて種々の研修に参加できるようシフト調整している。研修報告書を職員が閲覧し、必要に応じて伝達研修も実施している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	千葉県認知症GH連絡会に参加し、相互訪問等の活動はこれからの取り組みとして、サービスの質の向上につなげていきたい。		

グループホーム星の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談で生活状態、本人の思いを良く聴き、受け入れられるよう努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホーム内を見学して頂き、家族等の声に耳を傾け、求めているものを理解するように努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話を良く聴き、出きる事から実行し、情報提供しながら支援している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として、昔からの知恵等を教えていただき、職員が、助けられ支えあっている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と職員が一丸となって、自分の親・自らの立場になり支援している。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人等と関係が途切れないように、働きかけを行っている。お盆等に墓参りに行ったり一人ひとりの生活習慣を継続していけるよう努めている。	墓参り、入居者の家族がいる施設に面会に行く、礼状や手紙を書いたり電話をかける等、入居者の希望に沿って馴染みの関係を継続する支援が行われている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者同士の関係を把握し、お互いに良い関係になるよう心掛けている。		

グループホーム星の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人に会いに行ったり、継続的な付き合いができるよう心掛けている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人とコミュニケーションをとり、本人の『思い』『希望』等を把握するよう努めている。	ジェスチャーなどを交え、まずは入居者の話を聴き、ニーズの把握に努めている。入居者の居室で話を聞く時間も作っている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、家族や関係者等から話を聴き情報を収集している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録をつけ、把握し、できることは職員と一緒にやって頂き、有する能力の現状維持に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族と職員等で話し合い、その人らしく暮らして行けるように、個々の計画を作成し、目標が達成できているか、計画に沿ったサービスができているか話し合っている。	介護支援専門員が中心となって、職員や家族から情報を収集して介護計画を作成している。ケア会議を3ヶ月に一回行い、介護計画の見直しを行っている。	介護計画作成に当たっては、より多く職員の意見が反映されると、さらに良いと思われる。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌に一人ひとりの一日の様子を記録し、申し送り時には現状を伝え、把握するよう努めている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院等必要な支援は柔軟に対応して実施している。		

グループホーム星の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアさんの慰問、民生委員の来所、地域消防署員等と連携をとり、暮らしに反映している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に受診している。体調変化時には、すぐに受診できる体制をとっている。また本人や家族等の希望するかかりつけ医にも受診できるよう、支援している。	本人や家族を優先し、かかりつけ医の受診を支援している。かかりつけ医を変更した際も、医師との関係を図るようにしている。定期検診できる体制が整っている。歯科医による、訪問歯科診療も行っている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常関わっている中で、体調や表情等の変化等気付いたことがあればすぐ看護師に相談している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には週2～3回職員が見舞い、病院関係者との情報の交換・収集に努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在一人の入所者について、家族や本人の希望で医師、看護師と連携をとり取り組んでいる。	緊急時に対応できるよう、医師や看護師と連携を図り、訪問看護と訪問診療の体制を整えている。看取りに関する方針の同意書を作り、署名をもらっている。	終末期に向けた方針を職員全体で話し合い、共有して、事業所としての指針を確立することが期待される。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを職員で共有し、救急救命講習に参加して勉強している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練等を実施している。	年2回避難訓練を実施している。近隣住民に事業所の職員が多いということもあり、地域との連携もできていて、緊急時には協力を得られる体制が整っている。	

グループホーム星の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の尊厳を傷つけないよう言葉掛けや排泄等の対応には特に注意している。	入居者の名前に「さん」付けすることを徹底している。排泄等の声掛けや誘導の対応には特に注意している。職員同士で注意し合う関係性も築かれている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の中で本人が自分で決定できるように、声掛けしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事に時間は決まっているが、そのほかの時間は一人ひとりに合ったペースで、その人らしく生活して頂いている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を聴きながら散髪している。希望のある人は行きつけの美容院等へ案内し、衣服は本人の好みで着て頂いている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	体調に合わせて声掛けし、できる人は職員と一緒に片付けなど行っている。	献立は調理担当職員が食材を見て、時には入居者の希望も聞きながら決めている。入居者は、配膳や片付け、食器洗いを手伝うこともあり、入居者同士で協力し合う関係性も築かれている。職員も一緒に食卓を囲んでいる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は食後毎日記録し、体調に合わせたミキサ食の提供や、カロリー計算なども行って個々の体調に応じた支援をしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの能力に合わせて、自分では声掛けして歯磨きや義歯洗浄をして頂き、自力でできない方には介助して実施している。また、定期的に歯科衛生士もケアしている。		

グループホーム星の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録から排泄パターンを把握し本人の様子を見ながら、さりげなく誘導して気持ちよくトイレで排泄できるよう支援している。	入居者の様子や排泄パターンの記録を基にトイレへの誘導や声掛けを行うことにより、排泄の感覚がなかった人が「トイレに行きたい。」と言うようになってきている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材を取り入れたり水分摂取を促している。散歩にも行くように声掛けし、毎日便のチェックをしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間は日中と決まっているが、入りたい人は毎日でも入浴可能としている。	週2回入浴することを基本としているが、希望があれば回数を増やすなど、入居者の意向を優先するようにしている。入浴を拒む人には清拭で対応し、日をずらすして入浴することもある。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、希望者には「散歩」「カラオケ」等を楽しんでもらい、意識的に生活リズム作りをしている。眠れない人には「話し相手になってやる」「医師に相談する」等の対応をしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現在服薬中の薬ファイルを作り職員で共有し、毎日服薬確認をし、日誌にも記入している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	「掃除」「野菜収穫」「習字」等一人ひとりに合った場を設けて生きがいとなり、楽しめるよう支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い日には散歩に行ったり、戸外でカラオケを楽しんでいる。対象者は限られているが個別に買い物等にも出かけている。	入居者全員が週1回以上、散歩に行ったり、戸外でカラオケを楽しんだりしている。入居者からの要望に応じて、個別の買い物や墓参りにも行くこともある。	

グループホーム星の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる人は自己管理して頂いている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの送付物が届いた時は、本人の希望によりお礼の電話を掛ける支援をする。家族からの電話の取次ぎや年賀状・手紙等の投函の支援もしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節が味わえるように、季節の花等が見える位置にリビングの配置を変えている。また、季節に合った飾りを工夫したり、柚子湯や桜餅等提供し、強い日差し、音、部屋の温度等その都度最適になるように配慮している。	入居者手作りの季節を感じさせる作品を飾っている。室温や光の調整にも配慮しており、居心地よく過ごせるようにしている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由にくつろいで頂くため、リビングにソファを設置している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前まで使っていた家具、時計等持参して継続してお使い頂いている。本人や家族に希望により大きな仏壇等も部屋に置き、本人の気持ちを和らげている。	入居前まで使用していた、なじみの家具や仏壇等を持参している。季節感のある掲示物や写真などを飾るなど、それぞれが居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室等には手摺を設け安全で自立した生活が営めるよう支援している。判り易いようにトイレ、居室等には名札を付け又は写真を貼っている。		